

かかしのやくめ

なまえ

おんどくサイン

いねのみのった田んぼに、かかしが立っています。ぼうしをかぶり、ふるいふくをきています。

かかしは、米を食べにくる鳥をおいはらうために立てられました。遠くから見ると、田を見はる人のように見えます。

ところが、いつも同じばしよに立っていると、鳥はだんだん慣れてしまいます。かかしのかたにとまる鳥も出てきます。そこで、ときどきばしよをかえたり、ふくをとりかえたりします。かかしは、立てておくだけではやくに立たないのです。

(1) 「おいはらう」のいみに合うものを一つえらび、記ごうに○をつけましょう。

ア おって遠くへ行かせる

イ よんであつめる

ウ そだててふやす

エ かこんでまもる

(2) 鳥がかかしになれてしまうのはなぜですか。一つえらび、記ごうに○をつけましょう。

ア かかしが小さいから

イ かかしが白いから

ウ いつも同じばしよに立っているから

エ 田んぼが広いから

(3) かかしがかぶっているものは何ですか。ぶんしょうから三字で書きぬきましょう。

ア ぼうし

イ 田んぼ

ウ 稲

エ 田んぼ

書くときのポイント

「〜する」「〜で」をお知らせ。
「はしよ」ということばをつかう。

こたえ (うら)

- 問1 ア
問2 ウ
問3 ぼうし
問4 (れい) ときどきばしよをかえたり、ふくをとりかえたりする。

〈○のつけ方〉
問1～問3は、答えとおなじなら○。
問4は〈ばしよをかえる〉が書けていれば○。

2-10-3-1 v6
2年 説明文